

## 指導行政のポイント

### 新教科書と“発展記述”

菱村 幸彦

4月5日、文部科学省は、来春から学校で使われる中学校用教科書の検定結果を発表した。

#### わが国は「教科書カリキュラム」

新教科書では、学習指導要領の範囲を超える内容が「発展学習」として盛り込まれ、「ゆとり教育」からの転換が教科書にも現れたというので、大きなニュースになっている。

文科省によると、新教科書では、学習指導要領の内容削減でいったん姿を消した指導内容等が、発展学習として、9教科について総計592箇所も登場しているという。教科書に学習指導要領に定めのない内容が盛り込まれたのは、今回が初めてである。こうした教科書の出現は、学校教育にどのような影響を与えるか。

私は、これまでの教科書の基本的な考え方に少なからず変容を迫ることになるのではないかと思う。というのは、わが国では、これまで、教科書について、地域差・学校差を超えて、全国共通に教授される基礎的・基本的な内容で構成されるものという考え方があった。

この考え方の背景には、わが国の教育課程が「教科書カリキュラム」となっているという実態がある。つまり、多くの学校では、教科書に基づいて指導計画が立てられ、教科書の順序によって授業が行われ、教科書の単元中心に評価が行われているという現実がある。

そこで、教科書に求められるのは、学習指導要領との適合性である。教科書検定では、記述内容について、正確性や中立性や教育的配慮等がチェックされるが、なかでも重視されるチェック・ポイントは、学習指導要領との適合性である。

このため、従来の教科書検定基準では「学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いを不足なく取り上

げていること」と「学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに照らして、不必要なものは取り上げていないこと」という項目が置かれ、学習指導要領に定めていない内容を教科書に盛り込むことを排除してきた。

#### 採択と使用に新たな課題を

ところが、平成14年に教科書検定基準が改正され、学習指導要領の目標や内容の趣旨を逸脱せず、児童・生徒の負担過重とならない限り、学習指導要領に定めていない内容を教科書に盛り込むことが許容されることとなった。

学習指導要領に定めのない内容が教科書に盛り込まれるとなると、全国共通に教授される基礎的・基本的な内容で構成されるものという教科書の基本的概念が変わらざるを得なくなる。

この観点からみると、発展学習の内容を盛り込んだ新教科書については、次のような問題があるように思う。

一つは、教科書採択である。新教科書における発展学習の内容は、教科書によって特色があるので、教科書採択のための調査・研究や選定作業は、従来に比してより綿密かつ慎重に行うことが求められる。

もう一つは、教科書の使用である。同じ教科書を使いながら、ある学校(学級)では発展学習部分を教え、ある学校(学級)では教えないとなったとき、子どもや親はそれをどう受け止めるか。新教科書を前にして、教育委員会と学校は新たな課題を抱えることになりそうだ。

(ひしむら・ゆきひこ = (財)学習ソフトウェア情報研究センター 理事長)

...本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等をご連絡くださる場合は、抹消・登録に必要な【あて先/新旧のFAX番号】を必ずご明記ください。  
なお、本紙はEメール配信も行っております。  
http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp/kenshu 参照。

#### ●新刊案内●

3月25日刊 緊急刊行!

教育開発研究所刊

福岡沖地震、新潟県中越地震等を教訓として! 大泉光一【著】A5判160頁・定価1890円

## 学校の地震災害危機対応マニュアル

研修誌・図書の小社への直接のお申し込みは無料 FAX 0120-462-488 をご利用ください(24時間受付・即日発送)